

〔大阪信愛女学院短期大学2000年度教員特別研究費交付研究報告〕

子どもの実態調査報告 1989年と2001年の比較

教授 馬 場 桂 一 郎

本研究は、子どもたちの生活実態の10年間の変化を明らかにするために、同一地域において調査を実施した。寝屋川子ども問題連絡会の協力を得て、1989年に行った遊びと子どもの生活についての調査を、ほぼ同じ内容で2001年にも実施した。

子どもの遊びの変化

「よくする遊びを5種目あげて下さい」という回答をもとに、各学年別・男女別の記載種目のベスト30種目を調査した。その中で見られた特徴は、

①1989年の調査では見られなかったが、2001年の調査でベスト30に見られる種目は、幼稚園児・小学生低学年では、ベイブレード・キックボード・インラインスケート・シール交換。中学生では、メール・携帯電話・プリクラである。小学生の遊びについては、企業が昔の遊びをアレンジし発売した物が子どもたちの人気を集めている。

②鬼ごっこなど、従来小学校で終了するような遊びを、中学校まで引きずっている傾向が見られた。女子においては、小学校5年生から遊びの内容が変わる傾向が見られる。

③遊びの要素別に見ると、**a** テレビゲームは遊ぶ年齢の若年化などにより、小学校1年生では高い割合になっているが、小学校4～5年生では低くなっている。**b** 隙間遊び(本来考えられている能動的な遊びではなく、時間つぶしあるいは特定の時間と時間を埋めるような遊びをこのように名付けた。)は、女子においては、おしゃべり・店に行く・メールなどの増加により中学2年生では、前回と比較して20%ほど高くなっている。**c** 男子にお

いても最も盛んなスポーツ遊びである野球にサッカーの人气が追いついている。

子どもの生活実態について

2回の調査を比較すると次のようなことが見られる。**a** 放課後の遊び時間については、幼稚園児・小学生において1時間ほどの減少が見られる。**b** 屋外での遊び時間については、特に女子の外遊びが十分行われていない傾向が見られる。**c** 遊び時間についての満足度は、加齢とともに低くなっている。**d** 遊ぶ場所についての満足度では、遊び場が全くないという回答が、小6男子では19.6%となっており、小学校高学年の男子が思いっきり体を動かせる広い空間が不足していることを示している。**e** 遊び仲間は、近所の友達の割合が減少している。これは、子どもの数の減少が影響と思われる。**f** 遊び友達の年齢は、異年齢集団の遊びのますますの衰退が見られる。**g** 遊び友達は十分にあるかという質問では、十分にあるとの回答は、幼で男女とも50%強となっており、少子化により、近所の友達の減少の影響と思われる。**h** 遊び友達の人数では、幼・小の一人遊びの割合も増加している。**i** テレビの視聴時間については、数字から言えば、よく言われていたテレビ付けの状態は改善されたように見える。しかし実際に減っているのか、つけっぱなしの状態が当たり前となり、見ているという意識がなくなってきたのかは不明である。**j** 1日にテレビゲームをする時間については、遊ぶ時間は、1時間ぐらいが最も多いが、小6男子では4時間以上する割合が8.5%あり、健康の面から心配される。**k** 習い事・教室あるいは通

塾の割合が、幼稚園児において著しく増加しており、早期教育が浸透してきている。**l** 習い事に1週間に何日行っているかでは、小6で男女とも10人に1人が5日以上習い事に通うという忙しい毎日を送っている。**m** 勉強時間に関しては、勉強をしない子とする子に二極化してきている。**n** 就寝時間については、幼・小で1時間ほど遅くなっている。中3では午前2時以降の就寝が、男子で10.1%、女子で18.4%と増加している。**o** 睡眠時間は、1989年・2001年いずれにおいても、幼・小ではある程度確保されているが、中3では、女子においては、5時間以下が10%から20%弱に増えている。**p** 学校で眠たくなることがあるか、という質問については、男子では時々なる・いつもなるを合わせると、小3は1989年で5割強、2001年で6割強となっている。小6では1989年・2001年とも7割、中3では1989年・2001年とも9割となっている。女子では男子よりも眠たくなる割合は高く、時々なる・いつもなるを合わせると、小6で8割、中3ではほぼ100%になっている。特に、いつも眠たいが、中3で22.4%から35.8%に増加している。**q** 朝食の摂取については、女子では、毎日食べるが小6・中3で1割ほど減っている。ほとんど食べないが、中3で11.8%から24.1%に増えており、スリム志向、ダイエットブームが影響していると思われる。**r** 夕食時のテレビの視聴については、テレビを見ながら夕食をとるのが当たり前になってきている。**s** 母親・父親との会話については、各学年男女とも増加している傾向が見られる。**t** 家でどんな気持ちで毎日を送っているか、という質問に対し、中3男子では5人に1人、女子では4人に1人が、あまり楽しくないと回答している。**u** 思い通り

に使える時間はどのくらいかについては、男子では8時間以上が、幼で41.3%から12.9%に減っているのを筆頭に、その他の学年でも10%以上減っている。女子においても減少傾向が見られる。**v** 思い通りに使える時間については、有り余るほど有るとの回答の割合が、幼の女子で32.5%から5.5%に減っている。全くないという割合は中3女子では1割を超えている。特に女子で不満足感が強く、中3では、ほぼない・全くないを合わせると4人に1人が感じるようになっている。**w** 学校でどんな気持ちで毎日を送っているかについては、あまり楽しくないという回答が、男子では、小3・中3が10%を越え、女子では、小3・中3が15%を越えている。受験期にある中3はわかるとしても、小3の割合が高い点が注目される。これは、同級生にいじめられた経験があるとの回答が、小3では男女とも6割になっていることと関係していると思われる。そのほかの学年では、いじめられた経験は、男女とも、幼では3割、小6・中3では2割程度となっている。

まとめ

子どもたちの生活は、10年前の調査と比較して目立つ点は、就寝時間が遅くなっている点。通塾・習い事の低年齢化の進行。外遊びの減少。テレビ視聴時間の減少。時間に追われた生活などが現れている。

本研究結果の一部は、日本幼小児健康教育学会20回大会・春期野田大会、第9回日本子ども社会学会、日本幼小児健康教育学会21回大会・秋期倉敷大会、第1回日本発育発達学会シンポジウムにおいて発表した。また、これらの調査結果は、2003年1月27日(月)の読売新聞朝刊に掲載された。